

2. 背広・シャツなど前で合わせるタイプ

0803211	両袖に両方の上肢を通せるか？	A：服の左右がわからない。 C：首の部分から手を出し修正できない。 E：着る行為なのか、脱ぐ行為なのか解らない。 F：片袖だけ手を通している。 G：パーツに体の部位が入っていないことがある。 H：麻痺側上肢は途中でしか通さない（感覚障害も有している）。 J：時間がかかる・袖口から上肢をとそうとする。 K：袖の通し方は 不器用になる 反対側に服を回せない。 L：半分以上できない：片側の袖を通して反対側の袖の通し方がわからない、頭にひっかけるなど。	A：介護者の手を袖に通しておき、誘導。 E：無理せず時間をかける。 F：ざりげなく手伝う。 G：上手く入らないパーツ部位は先に体を通す。 H：充分に通っていないことを伝える・視覚で確認する癖を付ける。 J：否定するのではなく、正しい工程に戻す。 L：両方の袖に手をいれるところまで介助。	4
0803212	ボタン、ファスナーなどをかけられるか？	A：できない。 D：ボタンの掛け違い・ファスナーがセットできない。 E：ボタンの掛け違いがある。 H：ボタンを掛け間違える。 J：時間がかかる・ボタンの掛け違い。 L：できない：いじる行為はあるがかけるまでには至らない。 M：ボタンはできるがファスナーは苦手。	A：時間をかけると、次第にできた。 D：始めを準備し、上からと下から、やり方を一度示す、両手で持ってもらう。 E：一番上だけを先に止める。 H：一番上だけ介助する。 J：大きなボタンやはっきりした色のものにする。 L：介助。 M：できない部分は介助する。	6
0803219	その他	E：衣服の前後の区別が付かない（裏表も難しい）。 G：途中で手が止まってしまふ。	E：前後はワーカーが示す又は名前の印が前だと伝える。 G：声かけし、動作を促す。	

3. スボン・スカートなどはくタイプ

0803321	両脚を中に入れられるか？	A：ズボンの左右がわからない。 C：一方に裾に両足を通してしまふ。 D：一定に両脚を入れる・両足を同時に入れる・同じことを何度も繰り返す。 E：同じ所に両足を入れる。 G：上手く通せない。 H：一側に両脚を入れる J：後方に転倒。 K：手で持って足を上げると 測定のずれで戸惑う。 L：できない：脱いだらそのまま履く行為は無。	A：順番にひと工程ずつ指示。 D：言葉より触れるなどの体感に指示を伝える。 E：座って見てもらいながら、先だけまず両足を入れる。 G：ズボンを手繰り寄せ足を入れやすくした後、声かける。 H：一側は介助で入れ、もう一側は自力で行ってもらう・左右分かりやすいように広げて渡す。 J：背もたれのある椅子。 L：介助。	6
0803322	ボタン、ファスナーなどをかけられるか？	A：時間がかかる。結果できない。 C：ボタンやファスナーをかけずに止めてしまふ。 D：掛け違い・タグ他がファスナーに絡む E：経験あり。 L：できない：その行為に至らない。 M：できない。	A：きっかけを言葉、指で指示。 D：その都度介助。 L：ゴム入りのズボンに替える。 M：総ジムの衣類に変えることで自立できる。	6
0803329	その他	D：体に合わないサイズの服を着てはけない。 G：途中で手が止まってしまふ。 J：片足に両足を入れる。	D：ゴムなどの調整。 G：声かけし、動作を促す。 J：正しい工程へ戻す。	

4. 靴下をはく

0803431	足を靴下の中に入れられるか？	A：どうしてよいか、わからない。 D：腰が曲がって、靴下をひっかけるようにするが、かからない、あきらめ。 E：身体を曲げて足先を見ることが難しい。 J：片足に2枚はく。 K：靴が硬く、固縮が出やすく、早期に困難。 L：できない：手にはいたり、頭の上に乗せる。	A：順番にひと工程ずつ指示。やって見せる。 D：失敗する一歩手前で介助。 E：先だけ入れて後引引っ張ってもらふ。 J：こちらで誘導。 K：介助されることが多い。 L：職員が行う。	4
0803439	その他	A：入れても、底が甲にきている。 D：巻き爪でいたい。 G：途中で手が止まってしまふ。	G：声かけし、動作を促す。	

5. 履物をはく

0803541	足を靴の中に入れて履物に固定したりできるか？	A：どうしてよいか、わからない。 B：踵を靴に入れずサンダル履きする。 D：はくことはできるが、かかとをつぶす。 E：足を入れるかかたとを踏みつけてしまふ。 F：踵を踏んで靴をはく・裸足になる・片方の靴だけはく。 G：踵を踏んだままや、履かないで歩いてしまふ。 H：足背・足底が逆。 J：左右反対、かかとを踏んで歩く、マジックベルトをしなないなど。 K：左右を間違ふ。 L：半分以上できない：履く動作はできる、片側脱いで歩く、机に置くなどあり。 M：ファスナーを引き上げるなど細かいことはできない。	A：介助。 B：声掛けて対応する。 E：かかとだけ手伝う。 F：靴の大きさ、浮腫、痛みの観察、片方の時は新たな靴を差し出す。 G：声かけ・靴を提示し、履くように促す。 H：そのままの方向で履けるよう手渡す。 J：その人にあった靴選び、提供。 K：しるしをつける。 L：歩行中は拒否あるため、座った際に履く介助。 M：靴を履き終わるまで見守り介助する。	3
0803542	全体のまとめ	A：わからない。 D：男性の方がどちらという無頓着？ G：気がなった所のみ、いじっている。 L：できない。	A：介助。 G：ほかの部分も行うように声かける。 L：介助。	5
0803543	袖や裾の位置	D：腰が曲がる、痛くズボンが上がりきらず踵に裾が入りこむ、ズル。 J：引きずってしまひ、転倒につながる。 L：できない。	D：人前でおおさない…自尊心を傷つけない。 J：その人に合った長さに調整。 L：介助。	4
0803544	上半身と下半身の境目の調整	A：気に留めない。 D：シャツがめくれたままおさず、勝手にさわると、服を引き出されたと怒る。 F：身だしなみを整えられない・上着がはみ出ている。 L：できない。	A：介助。 D：人前でおおさない…自尊心を傷つけない。 F：ざりげなく手伝う。 L：介助。 M：介護者が整える。	3
0803549	その他	A：靴の踵を踏み倒している。 C：靴を左右逆に履いてしまふ、靴をすぐに脱いでしまふ、脱いだ靴をテーブルの上などで曲げたり捻ったり手遊びする。 G：途中で手が止まってしまふ。	G：声かけし、動作を促す。	

IX 脱衣

生理機能	温度感覚
------	------

概念	衣類を脱ぐ必要がある
----	------------

各行為についてケアが難しかった生活障害の具体像	その生活障害にどのようなケア（介助）をしたら上手くいったのか	全介助のきっかけとなる生活障害
-------------------------	--------------------------------	-----------------

1) 着衣が置かれた場に行く：歩行・移動

090101	着衣が置かれた場に行く	G：自分のものがある場所を判断せず、動いてしまう。 J：他者のたんと間違える。 L：できない：その場でで行う。 M：できない。	G：本人の着衣が置いてある場所へ誘導する。 J：名前・写真で持ち物確認。 L：職員が片付ける。 M：声掛け誘導する。	3
090199	その他	I：脱いだ服をタンスにしまいこむ。	I：タンスの中を定期的に確認。	

2) 身につけているものを脱ぐ

順番：上ものから順に着衣動作：かぶる、はく、前面・後面で合わせる

1. セーターなどがぶるタイプ

0902101	脱ぐ動作は適切か？	A：順番がわからない。 E：顔にあたることを嫌がる。 G：脱ぐことを嫌がる。 H：途中で止まる。 J：頭がぬげない。 M：とこほわす脱ぐ（暑いと感じる？）。温度調整ができず、寒くても衣類を急に脱いでしまうことがある。汚れものと洗い替えの区別がつかず汚れ物をタンスに再度しまってしまう。衣類をゴミ箱に捨てる 窓から捨てる、破く。	A：一つずつ工程を区切って、指示。 E：顔に当たらないようにつつを広くして介助する。 G：上衣を脱がす時は下衣に、下衣を脱がす時は上衣に意識を向けさせる。 H：途中でであることを伝える。 J：体幹・上肢の可動域制限や筋力低下も原因。 M：居室に誘導し対応。衣類調整をする。脱いだらその都度衣類をきて貰う。ホールの温度調整をしたり、衣類の調整をする。本人が気づかないように汚れ物を回収し洗濯後そと返しておく。回収し洗濯してそと返す。破いた衣類は家族に見せて新しい物と交換する。	3
0902109	その他	C：ボタンやファスナーの引き手？部分を繰り返し触り壊してしまう、周囲に人がいてもかまわず、下着まで脱ぐ。 D：脱ぎたくなかったのに脱がされる・脱ぎたがらない。 G：途中で手が止まってしまう。 J：脱いだり着たりを繰り返す。	G：声かけし、動作を促す。 J：繰り返す場合は介助し、次の動作へのきっかけを作る。	1

2. 背広・シャツなど前で合わせるタイプ

0902211	ボタン、ファスナーなどを外せるか？	A：指示するできない。しばらくすると外せている。 B：ボタンが外せない。 C：ボタンを引きちぎる。 D：外せない。 E：難しい。 L：ファスナーはできる、ボタン：いじっているうちにはずれる。	A：職員が過剰に声をかけない、指示をしない。 B：脱ぐ動作の前にボタンを認識させる。 D：ひとつ目を外す、はしめを促す。 E：ラジオ体操の歌をかけると外す人がいました。 L：必要に応じた時には指示がはらないためその都度介助。	7
0902212	袖から上肢を抜けるか？	A：順番がわからない。 E：腕を曲げたり伸ばしたり連続動作が難しい。 H：麻痺側の袖を抜かない。	E：動きを言葉のみではなく行動で動かし示す。 H：抜いていないことを伝える。	4
0902213	ボタン、ファスナーなどをかけられるか？	A：ファスナーはできない。 J：時間がかる。掛け間違ひ。	A：介助。 J：大き目のボタン。目立つ色。	3
0902219	その他	G：途中で手が止まってしまう。	G：声かけし、動作を促す。	1

3. スボン・スカートなどはくタイプ

0902321	脚を抜けさせられるか？	A：バランスを崩すことがわからない。 E：立ったままでは難しい。 G：はこうとしてしまう。 J：後方へ転倒。	A：座ってする。 E：座って介助を行う。 G：上衣を脱がす時は下衣に、下衣を脱がす時は上衣に意識を向けさせる。 J：背もたれのある椅子。	4
0902329	その他	G：途中で手が止まってしまう。	G：声かけし、動作を促す。	

4. 靴下を脱ぐ

0902431	靴下から足を抜かせられるか？	D：腰が曲がり、手が届かない。 E：手が靴下まで届かない。 G：途中で手が止まってしまう。	D：介助してしまう。 E：介助することが多い。 G：声かけし、動作を促す。 L：座っている時、寝ているときに脱ぐ介助。	2
0902439	その他			

5. 履物を脱ぐ

0902541	足を靴やその他の履物から外せるか？	A：脱いでも、靴の向きがバラバラ。 D：靴を靴と理解せぬまま、ずっと撫でている。 E：靴のまま部屋にあがってしまう。 G：途中で手が止まってしまう。	A：修正（介助）。 D：無理をせずに、まつ。 E：入り口に違うスリッパを置き、履き替えるように支援。 G：声かけし、動作を促す。難しければ介助行う。 L：座っている時、寝ているときに脱ぐ介助。	3
0902549	その他	J：どこかで脱ぎ、はだして歩いている。	J：見つけ次第対応。	

X 入浴

生理機能	生理機能はない
------	---------

概念	衛生概念は保持されているか？
----	----------------

各行為についてケアが難しかった生活障害の具体像	その生活障害にどのようなケア(介助)をしたら上手くいったのか	全介助のきっかけとなる生活障害
-------------------------	--------------------------------	-----------------

1) 浴室に移動する：歩行・移動

100101	浴室に移動する	<p>A：「入浴する」と事前に説明すると、嫌がる。 D：連れて行かれることを拒む。 E：入浴の拒否のため、移動できない。 F：浴室に移動中にどこに行くのかわかる。 G：浴室まで行ってしまえば入浴するが、先に入浴と分ると、拒否してしまう。 H：拒否（「入浴する」ことの理解ができない）、拒否（大人数の前で裸になることの不快感）、拒否（もともと入浴する習慣がない）。 I：浴室の場所がわからない。 J：拒否（暴言・暴力・動かない）。 L：歩行は可能、目的の理解はできない、抵抗が大。 M：できない。 N：入浴拒否有、衣類を脱ぐことに抵抗され暴れる。かみつく。年寄りだからそう風呂に入らなくてもいいと言ひ、暴れる。居室に入ると入浴しない。服を盗まれると訴え暴れる。</p>	<p>A：早めの誘いだしはせず、直前に説明。 D：スタッフ都合の押しつけ・本人の仕方なくの想いを取り付ける。 E：居室にお風呂があるため、先ず居室に誘い話をする。 F：移動中に風呂に行く旨を伝え続ける。 G：入浴とは言わず、「手伝って欲しいことがある」と依頼し、来ていただく。 H：充分説明する・他の話しをしながら誘導。入浴の順番を変更する（1人→少人数→大人数）。不衛生であることを充分説明する。 I：職員が誘導する。 J：職員を変えての対応、他利用者と一緒に誘導、トイレ後の誘導。 L：入浴日の把握は出来ないで声かけ。 M：抵抗が大きい為、2人で両側から介助、声かけしながら浴室まで誘導。 N：誘導が必要。 O：複数の介護者で対応。声掛けしながら衣類を脱いでもらう。服のまま浴室に入ってもらい、わざとお湯をかけて「ごめんね」といながら衣類を脱いでもらう。声掛けし誘導。入浴回数の工夫をするも本人もお風呂に入るとも納得する。本人がホールに来たらお茶を出したりして引き止めその間に入浴の準備をし直接浴室へ誘導する。居室へ戻る前にトイレの声掛けをしたり、さりげなく居室への導線をはきき浴室へ誘う。洗い替えをそばに置き、「服はあるよ」と示しながら服を脱いでもらう。脱いだ服は本人に気づかれないようかごに入れ洗濯機の中に入れて持ち帰らないようにする。</p>	5
100199	その他	<p>I：入浴を拒否する。</p>	<p>I：自宅の風呂が壊れたと説明する。 J：「温泉ですよ～」などの声掛けの工夫。原因に対する対応。寒いから、服をとられるから、痛いからなど。</p>	1

2) 脱衣

順番：上のものから順に着衣動作：かぶる、はく、前面・後面で合わせる

1. セーターなどがかるタイプ

1002101	脱ぐ動作は適切か？	<p>A：周囲に人がいるとできない。 B：服を脱ぐ事を忘れて入浴しようとする。 D：脱がない。 F：お風呂に入るために脱ぐということがわからない。 G：脱ぐことを嫌がる。 J：頭がぬげない。 L：動作は可能：状況の理解できず指示に対し抵抗。</p>	<p>A：空間を区切る。 B：服の背中部分を軽く上げると気付いて脱ぐことができる。 D：袖を先に脱ぐように促す。 F：浴槽を見ていただく、仲良しの利用者と一緒に入浴にする。 G：上衣を脱がす時は下衣に、下衣を脱がす時は上衣に意識を向けさせる。 J：体幹、上肢の可動域制限や筋力低下も原因。大き目の衣服へ。基本的に職員が介助にて行っている。拒否の強い方の介入は困難。スタッフを変えてみる、順番を変えてみるなどの対応。女性スタッフ？男性スタッフ？ L：2人介助：一人が行い、もう一人は抵抗で怪我しないように声かけと身体の動きをとめるような介助。</p>	5
1002109	その他	<p>G：途中で手が止まってしまう。 I：服を脱ぐことを拒否する。 J：脱いだり着たりを繰り返す。</p>	<p>G：声かけし、動作を促す。 I：新しい服を試着すると言ってぬいでもらう。 J：繰り返す場合は介助し、次の動作へのきっかけを作る。基本的に職員が介助にて行っている。拒否の強い方の介入は困難。スタッフを変えてみる、順番を変えてみるなどの対応。女性スタッフ？男性スタッフ？</p>	2

2. 背広・シャツなど前で合わせるタイプ

1002211	ボタン、ファスナーなどを外せるか？	<p>A：指示するとできない。しばらくすると外せている。 C：ボタンを引きちぎる。 D：脱ぐときにボタンをもてあそぶ・はずげないのでちぎる。 E：ファスナーの下部分がはめにくい。 L：動作は可能：状況の理解できず指示に対し抵抗。</p>	<p>A：職員が過剰に声をかけない、指示をしない。 D：一定の時間は待つ・介助・服の検討。 E：最後の部分は介助。 J：基本的に職員が介助にて行っている。拒否の強い方の介入は困難。スタッフを変えてみる、順番を変えてみるなどの対応。女性スタッフ？男性スタッフ？ L：2人介助：一人が行い、もう一人は抵抗で怪我しないように声かけと身体の動きをとめるような介助。</p>	7
1002212	袖から上肢を抜けるか？	<p>A：順番がわからない。 D：袖の途中で詰まる・肌着と服と一緒にになってしまう。 E：袖口を引くことが出来ない。 L：動作は可能：状況の理解できず指示に対し抵抗。</p>	<p>D：一枚一枚を袖を抜く。 E：少し引っ張り、協力動作をしていただく。 J：基本的に職員が介助にて行っている。拒否の強い方の介入は困難。スタッフを変えてみる、順番を変えてみるなどの対応。女性スタッフ？男性スタッフ？ L：2人介助：一人が行い、もう一人は抵抗で怪我しないように声かけと身体の動きをとめるような介助。</p>	6
1002213	ボタン、ファスナーなどをかけられるか？	<p>A：ファスナーはできない。 D：掛け違い、分らずにストップ。 E：ファスナーの下部分がはめにくい。 J：時間がかかる。掛け間違い。 L：できない：かけることの動作が理解できず。</p>	<p>A：介助。 D：一定の時間は待つ・介助・服の検討。 E：最初の部分は介助。 J：大き目のボタン。目立つ色。基本的に職員が介助にて行っている。拒否の強い方の介入は困難。スタッフを変えてみる、順番を変えてみるなどの対応。女性スタッフ？男性スタッフ？ L：2人介助：一人が行い、もう一人は抵抗で怪我しないように声かけと身体の動きをとめるような介助。</p>	4
1002219	その他	<p>G：途中で手が止まってしまう。 I：脱衣を拒否する。 L：できない：かけることの動作が理解できず。</p>	<p>G：声かけし、動作を促す。 I：水をかける。周囲の利用者をみて何をするか説明 J：基本的に職員が介助にて行っている。拒否の強い方の介入は困難。スタッフを変えてみる、順番を変えてみるなどの対応。女性スタッフ？男性スタッフ？ L：2人介助：一人が行い、もう一人は抵抗で怪我しないように声かけと身体の動きをとめるような介助。</p>	2

3. スボン・スカートなどはくタイプ

1002321	脚を抜けさせられるか？	A : バランスを崩すことがわからない。 G : はこうしてしまう。 L : 動作は可能；状況の理解できず指示に対し抵抗。 L : できない；かけることの動作が理解できず。	A : 座ってする。 D : 風呂の脱衣は、介助する量が多い。 G : 上衣を脱がす時は下衣に、下衣を脱がす時は上衣に意識を向けさせる。 J : 背もたれのある椅子。基本的に職員が介助に行っている。拒否の強い方の介入は困難。スタッフを変えてみる。順番を変えてみるなどの対応。女性スタッフ？男性スタッフ？ L : 2人介助：一人が行い、もう一人は抵抗で怪我しないように声かけと身体の動きをとめるような介助。	5
1002329	その他	G : 途中で手が止まってしまう。 I : 脱衣を拒否する。 L : できない；かけることの動作が理解できず。	G : 声かけし、動作を促す。 I : 大きなタオルをはおる。隅で脱ぐ。 J : 基本的に職員が介助に行っている。拒否の強い方の介入は困難。スタッフを変えてみる。順番を変えてみるなどの対応。女性スタッフ？男性スタッフ？ L : 2人介助：一人が行い、もう一人は抵抗で怪我しないように声かけと身体の動きをとめるような介助。	

4. 靴下を脱ぐ

1002431	靴下から足を抜けさせられるか？	E : 足先の方から引っ張ろうとする為、伸びて脱げない。 G : 途中で手が止まってしまう。 K : つま先から引っ張り 転びそうになる。 L : 動作は可能；状況の理解できず指示に対し抵抗。 L : できない；かけることの動作が理解できず。	D : 風呂の脱衣は、介助する量が多い。 E : 脱ぐ場所を伝え、最初だけ手伝う。 G : 声かけし、動作を促す。 J : 基本的に職員が介助に行っている。拒否の強い方の介入は困難。スタッフを変えてみる。順番を変えてみるなどの対応。女性スタッフ？男性スタッフ？ L : 2人介助：一人が行い、もう一人は抵抗で怪我しないように声かけと身体の動きをとめるような介助。	3
1002439	その他	L : できない；かけることの動作が理解できず。	J : 基本的に職員が介助に行っている。拒否の強い方の介入は困難。スタッフを変えてみる。順番を変えてみるなどの対応。女性スタッフ？男性スタッフ？ L : 2人介助：一人が行い、もう一人は抵抗で怪我しないように声かけと身体の動きをとめるような介助。	

5. 履物を脱ぐ

1002541	足を靴やその他の履物から外せるか？	G : 途中で手が止まってしまう。 K : ひもを外すの混乱。次にベルトを変に引っ張る。 L : 動作は可能；状況の理解できず指示に対し抵抗。 L : できない；かけることの動作が理解できず。	D : 風呂の脱衣は、介助する量が多い。 G : 声かけし、動作を促す。 J : 基本的に職員が介助に行っている。拒否の強い方の介入は困難。スタッフを変えてみる。順番を変えてみるなどの対応。女性スタッフ？男性スタッフ？ L : 2人介助：一人が行い、もう一人は抵抗で怪我しないように声かけと身体の動きをとめるような介助。	3
1002549	その他	L : できない；かけることの動作が理解できず。	J : 基本的に職員が介助に行っている。拒否の強い方の介入は困難。スタッフを変えてみる。順番を変えてみるなどの対応。女性スタッフ？男性スタッフ？ L : 2人介助：一人が行い、もう一人は抵抗で怪我しないように声かけと身体の動きをとめるような介助。	

3) 予備洗い

100301	洗面器など容器を手にする	D : そのまま入っていく、手順を押しつけたら怒ります。水を掛ける。 E : 洗面器を手にしなない。 K : 洗面器ではなくみ出せない 桶で浸めてもかけられない。 L : できない；指示がいらぬ。 M : できない。いきなり浴槽に入ろうとする。	D : 止められない。 E : ワーカーが寝す。位置を示す。 J : 基本的に職員が介助に行っている。拒否の強い方の介入は困難。スタッフを変えてみる。順番を変えてみるなどの対応。女性スタッフ？男性スタッフ？ L : 職員がシャワーを出してかける。 L : 2人介助：一人が行い、もう一人は抵抗で怪我しないように声かけと身体の動きをとめるような介助。 M : 先にお湯をかけて体を洗う介助をする。	5
100302	水を汲む	A : 動作はできる（汲む水の量が少ない）。 E : 洗面器を使用せず、手ですくおうとする。 L : できない；指示がいらぬ。 M : できない。	A : 筋力の低下のため、無理はできない。 E : 洗面器を渡せば浴槽の湯をくむことが出来る。 J : 基本的に職員が介助に行っている。拒否の強い方の介入は困難。スタッフを変えてみる。順番を変えてみるなどの対応。女性スタッフ？男性スタッフ？ L : 2人介助：一人が行い、もう一人は抵抗で怪我しないように声かけと身体の動きをとめるような介助。 M : 介護者が行う。	5
100303	前を洗い流す	A : 体にかからない。 E : 声かけ無しでもまず最初に前は洗う（ほぼ全員）。 J : 必要以上に何度も繰り返す。 L : できない；指示がいらぬ。 M : できない。	A : 介助。 J : 声掛け。基本的に職員が介助に行っている。拒否の強い方の介入は困難。スタッフを変えてみる。順番を変えてみるなどの対応。女性スタッフ？男性スタッフ？ L : 2人介助：、シャワーで介助。 L : 2人介助：一人が行い、もう一人は抵抗で怪我しないように声かけと身体の動きをとめるような介助。 M : 声掛けし行為を促す。できない場合は介助する。	4
100399	その他	I : シャワーを嫌がる。 L : できない；指示がいらぬ。	I : 桶でお湯をかける。お湯を含んだタオルを使う。 J : 基本的に職員が介助に行っている。拒否の強い方の介入は困難。スタッフを変えてみる。順番を変えてみるなどの対応。女性スタッフ？男性スタッフ？ L : 2人介助：、シャワーで介助。 L : 2人介助：一人が行い、もう一人は抵抗で怪我しないように声かけと身体の動きをとめるような介助。	1

4) 浴槽に入る、出る

100401	またいで入る	A : 怖がる。 D : 浴槽の淵に立ちあがる。 E : またぐときに怖がる(深さが解らない)。 K : 浴槽をまたいで入る動作は混乱が多い。 L : できない: 介助に対し暴力行為となる。 L : できない: 指示がはいらぬ。	A : 怖がると、それ以後がバニックになるため介助。 D : 支える。 E : つままってもらい安心感を与える。 J : その方の能力にあった入浴形態。 L : 2人介助: 、シャワーで介助。 L : 2人介助: 一人が行い、もう一人は抵抗で怪我しないように声かけと身体の動きをとめるような介助。	8
100402	越えて出る	A : 怖がる。 B : 浴槽から出るときに再び元に戻って入ってしまう。 D : 超えられない、引っ掛かる。 E : 湯船から立ち上がろうとしない。 K : 前に手を突いて出ようとし、介護と息が合わない。 L : できない: 指示がはいらぬ。	A : 怖がると、それ以後がバニックになるため介助。 B : 手摺の指示をし、出口に向けることで出ることがわかる。 E : 言葉で、一つ一つの動作を説明する。 J : その方の能力にあった入浴形態。 L : 2人介助: 、シャワーで介助。 L : 2人介助: 一人が行い、もう一人は抵抗で怪我しないように声かけと身体の動きをとめるような介助。	7
100499	その他	F : 浴槽から出てくれない。 I : 入ることを拒否。 J : 浴槽から出ない。 K : 中で落ち着かず正座しようとしてたり動いてしまう。 L : できない: 指示がはいらぬ。 M : 浴槽から立ち上がる行動がわからなくなる。	F : 「●分入っているよ」と時間を伝える・時計を置く・飲み物を見せる。 I : お湯をませる。入らない。 J : お湯を抜き介助・タイマーをかけて出るきっかけを作る。その方の能力にあった入浴形態。 L : 2人介助: 一人が行い、もう一人は抵抗で怪我しないように声かけと身体の動きをとめるような介助。 M : 指示が伝わらない時は浴槽のお湯を抜くと立ち上がる。	1

5) 浴槽につかる

100501	体がつかる姿勢をとる	A : 怖がる。 D : 恐怖にあおられて、腰をつけてもらえない。 E : 体換座りをせず、正座してしまう。 L : できない: 介助に対し暴力行為となる。 L : できない: 指示がはいらぬ。	A : 腰を曲げるように、軽く腰を刺激。 D : 無理にしない。 E : 一緒に入って座るよう少しづつ手足を動かす。 J : その方の能力にあった入浴形態。 L : 2人介助: 一人が行い、もう一人は抵抗で怪我しないように声かけと身体の動きをとめるような介助。	7
100502	姿勢を保つ	A : 体が浮く。 D : 姿勢はとるが、足腰がういてしまう。 L : できない: 指示がはいらぬ。 M : 姿勢が保てず湯船にういてしまう。	A : 肩をかるく押さえておく(介助)。 D : 介助にて腰浴。 E : 介助なし。 J : その方の能力にあった入浴形態。 L : 2人介助: 、シャワーで介助。 L : 2人介助: 一人が行い、もう一人は抵抗で怪我しないように声かけと身体の動きをとめるような介助。 M : お湯の量を少なめに調整して対応する。	6
100599	その他	L : できない: 指示がはいらぬ。	J : その方の能力にあった入浴形態。 L : 2人介助: 、シャワーで介助。 L : 2人介助: 一人が行い、もう一人は抵抗で怪我しないように声かけと身体の動きをとめるような介助。	2

6) 洗体の用意

100601	タオルやスポンジを用意する	A : 「タオル?」何?と、概念がわからない。 G : 浴槽ごとに設置済み。 L : できない: 指示がはいらぬ。 M : できない。	A : 介助。 D : スタッフ対応が多い。 E : ワーカーが用意。 J : 基本的に職員が介助。 L : 職員がセット。 L : 職員がセット。 L : 2人介助: 一人が行い、もう一人は抵抗で怪我しないように声かけと身体の動きをとめるような介助。 M : あらかじめ介護者が用意しておく。	6
100602	石けんなど洗剤を用意する	A : 石ケン?何をやるものかわからない。 G : 浴槽ごとに設置済み。 L : できない: 指示がはいらぬ。 M : できない。	A : 介助。 E : ワーカーが用意。 J : 基本的に職員が介助。 L : 2人介助: 一人が行い、もう一人は抵抗で怪我しないように声かけと身体の動きをとめるような介助。	6
100603	洗面器など水を入れる容器を用意する	G : 浴槽ごとに設置済み。 L : できない: 指示がはいらぬ。 M : できない。	A : 一つ一つ、区切って指示すると可能 E : ワーカーが用意 J : 基本的に職員が介助。 L : 2人介助: 一人が行い、もう一人は抵抗で怪我しないように声かけと身体の動きをとめるような介助。	5
100699	その他	G : 浴槽ごとに設置済み。 L : できない: 指示がはいらぬ。	J : 基本的に職員が介助。 L : 2人介助: 一人が行い、もう一人は抵抗で怪我しないように声かけと身体の動きをとめるような介助。	1

7) 洗体の実際

100701	タオル・スポンジ等に洗剤をつける	A : どうしてよいかわからない。 D : 洗剤を顔に顔に持って行く。 K : 手で洗うことの方がスムーズ。 L : できない : 指示がはいらない。 M : 石鹸をタオルにつけられるが液体石鹸はできない。	A : 目の前でやって見せる。 E : ワーカーが用意。 G : 職員実施。 J : 基本的に職員が介助。 L : 2人介助 : 一人が行い、もう一人は抵抗で怪我しないように声かけと身体の動きをとめるような介助。	7
100702	これに水をつける	A : どうしてよいかわからない。 D : 口に入れる。 L : できない : 指示がはいらない。	A : 目の前でやって見せる。 E : ワーカーが用意。 J : 基本的に職員が介助。 L : 2人介助 : 一人が行い、もう一人は抵抗で怪我しないように声かけと身体の動きをとめるような介助。	5
100703	これを用いて体を洗う	A : どうしてよいかわからない。 D : 陰部を洗った終わり。 E : 同じ所をこしこししてしまう。 I : 洗い残しが多い。 K : 体の一部分を小さく洗い他へ移れない。 L : 半分以上可能:背中の一部は届かないので洗わない。 L : できない : 指示がはいらない。 M : 届く範囲のみできるが充分洗えない。	A : 目の前でやって見せる。 E : 部分的に示してあげる。 G : 自分で届くところは行うように声かけ。届かない場所は介助。 I : 介助。 J : 基本的に職員が介助。 L : 背中を介助 L : 2人介助 : 一人が行い、もう一人は抵抗で怪我しないように声かけと身体の動きをとめるような介助。	8
100704	洗面器などを用いて洗剤を洗い流す	A : どうしてよいかわからない。 I : 流し残しがある。 L : できない : 指示がはいらない。 M : 十分できない。	A : 目の前でやって見せる。 G : 自分で届くところは行うように声かけ。届かない場所は介助。 I : 介助。 J : 基本的に職員が介助。 L : 2人介助 : 一人が行い、もう一人は抵抗で怪我しないように声かけと身体の動きをとめるような介助。 M : 介護者が洗う。	5
100799	その他	L : できない : 指示がはいらない。 M : 石鹸やボディソープと間違えて浴槽用洗剤で体を洗おうとする	J : 基本的に職員が介助。 L : 2人介助 : 一人が行い、もう一人は抵抗で怪我しないように声かけと身体の動きをとめるような介助。 M : 入浴に必要なものは浴室内に置かないようにする	1

8) 洗髪

100801	シャンプー・リンスなど洗髪剤を用意する	C : シャンプー、ボディソープ、リンス等の区別ができない。 G : 浴槽ごとに設置済み。 K : シャンプーとリンスの区別がつかない。 L : できない : 指示がはいらない。 M : できない。 M : 洗髪拒否がある	A : 介助。 E : ワーカーが用意。 J : 基本的に職員が介助。 L : 2人介助 : 一人が行い、もう一人は抵抗で怪我しないように声かけと身体の動きをとめるような介助。 M : 清潔が保たれるようにチェックしながら対応。わざと髪を濡らして洗髪をする場合もある	5
100802	洗髪剤を髪につける	A : どうしてよいかわからない。 D : 口に入れる。 I : 洗髪拒否。 K : シャンプーを手に取ると顔を洗おうとしてしまう。 L : できない : 指示がはいらない。	A : 目の前でやって見せる。 E : ワーカーが用意。 I : シャンプーハットを使用。 J : 基本的に職員が介助。 L : 2人介助 : 一人が行い、もう一人は抵抗で怪我しないように声かけと身体の動きをとめるような介助。	6
100803	つけた洗髪剤を頭全体に行き渡らせる	A : 微妙な工程はできない。 D : 体の前方だけで終わる。 I : 何度も頭を洗ってしまう。 K : 前髪だけを洗いがち 頭を倒すことが苦手。 L : 半分以上できない : 側頭部・前頭部をなでる程度。 L : できない : 指示がはいらない。 M : 一部分は洗えるが十分できない。	A : 介助する部分あり。 E : ワーカーが用意。 I : 洗髪後すぐに体を洗うように声かけ。 J : 基本的に職員が介助。 L : 職員が行う。 L : 2人介助 : 一人が行い、もう一人は抵抗で怪我しないように声かけと身体の動きをとめるような介助。	9
100804	シャワー・洗面器を用いて洗髪剤を洗い流す	A : できない。 K : シャワーのレバーが操作出来ない。 L : 半分以上できない : シャワーをかけながら洗うため右側のみが主となる。 L : できない : 指示がはいらない。 M : できない。	A : 介助。 E : ワーカーが用意。 J : 基本的に職員が介助。 L : 職員が行う。 L : 2人介助 : 一人が行い、もう一人は抵抗で怪我しないように声かけと身体の動きをとめるような介助。	8
100805	この際に閉眼し続ける	A : 開け続ける。 B : 洗髪中に目を開けてしまう。 D : 目を開けたがる・石鹸が目にはいる。 E : 閉眼し続けている。 K : 注意持続、行為持続障害の多い閉眼し続けられない。 L : できない : 指示がはいらない。	A : 特になし。 B : 下を向かせて水が流れていく、感覚を感じてもらう。 E : 声かけし続ける「もう少し終わりますからね」。 J : 基本的に職員が介助。 L : 2人介助 : 一人が行い、もう一人は抵抗で怪我しないように声かけと身体の動きをとめるような介助。	4
100899	その他	C : ボディシャンプー等のポンプを繰り返し押し、大量に出してしまう。ボディシャンプー等うまく受けられず、床にごぼしてしまう。 L : できない : 指示がはいらない。	J : 基本的に職員が介助。 L : 2人介助 : 一人が行い、もう一人は抵抗で怪我しないように声かけと身体の動きをとめるような介助。	1

9) 拭き取り

100901	タオルを手にする	D : 拭きとりなしに脱衣へ。 L : できない : 指示がはいらない。	A : 介助。 E : ワーカーが用意。 J : 基本的に職員が介助。 L : タオルの準備はセットしておく。 L : 2人介助 : 一人が行い、もう一人は抵抗で怪我しないように声かけと身体の動きをとめるような介助。	2
100902	タオルを用いて体の濡れを拭き取る	D : 何もせずに、タオルを首にかける。 E : 前だけしか拭かない。或いは手だけを拭く。 L : できない : 指示がはいらない。 M : 背中など届かないところはできない。	E : 「此处も拭いてね」と示す。 J : 基本的に職員が介助。 L : 2人介助 : 一人が行い、もう一人は抵抗で怪我しないように声かけと身体の動きをとめるような介助。	6
100999	その他	F : 手の届く範囲のみできる。 L : できない : 指示がはいらない。	F : 手の届かない範囲は手伝う。 J : 基本的に職員が介助。 L : 2人介助 : 一人が行い、もう一人は抵抗で怪我しないように声かけと身体の動きをとめるような介助。	

XI 移乗

生理機能 生理機能はない

概念 身体を別の場所へ移動させる必要がある

各行為についてケアが難しかった 生活障害の具体像	その生活障害にどのようなケア (介助) をしたら上手くいったのか	全介助の きっかけと なる 生活障害
-----------------------------	-------------------------------------	-----------------------------

1) 介護者の意図について

1101101	意図の理解	<p>A : できない。 C : 意図が理解できず、起立方向に力が入らない。逆に後方に反るように力が入ってしまう。意図が理解できず、膝が伸展し足部に過重できない。立位になっても腰が引け、体幹の転回ができない。意図理解ができず立位から座る際に、強く力が入り座ろうとしない。介助しようとする怒りだしたり拒否してしまう。 D : ただうなずいて笑って了解がとれない。怒ります。 E : 返事があるが、行動が伴わない。 I : 車いすがわからない。 J : 指示が入らず、対象物に体的確に対応できない。 K : 推測は 早期に利かなくなる。 L : 半分以上理解できる；その場での指示の理解はできるが数分たつと忘れる。 L : できない；口頭の説明は理解できず、問い掛けに対し全く意味不明なことを話している。</p>	<p>A : 介助。 D : タイミングを計り直す。何を了解していないのか、拒むメッセージの理解。 E : 言葉と動作で指示する。 I : 反復し慣れてもらう。 J : 対象物への注意を促し、手すりなどを利用、待つ。 K : 具体的に指示する。 L : そのつど繰り返し説明する。 L : 了解できる単語を繰り返すと機嫌よいため、その後にはジェスチャーや本人の手や身体の一部に手を添えながら介助。</p>	10
1101199	その他			

2) ベッドから車いす / 車の中への移乗の過程

110201	体がベッドから離される	<p>A : できない。 B : 起きようと言っても、起きれない（捕まるところがわからない）。 C : 起立方向に力が入らない。後方に反るように力が入ってしまう（重心が前方に移せない）。起立方向に力が入らない。膝が伸展し足部に過重できない。立位でも腰が引けてしまい、体幹の転回ができない。 D : 恐怖・不安によってつまむ、ける、股など。 E : 怖がる。 G : 大きな声を出す。 H : ベッド柵や車椅子アームレストを離さない。 I : ブレーキのかけ忘れ。 J : 重心の移動がうまくできず、後方へ突っ張ってしまう。 K : 車いすの両手のアームレストを手を掴んでしまう。</p>	<p>A : 介助。 B : 手を引いて起きる意識をむけてもらう。 D : 目的が本人の意図をくすぐるコミュニケーション。 E : 不安がないように話しながら、身体を密着させる。 G : 「大丈夫ですよ」と声かけしながら行う。 H : 移動先を充分説明したり、触ってもらう。 I : オートストッパーブレーキ。 J : 重心の移動を促し、声掛けし不安をなくす、介助スピードはゆっくり。</p>	6
110202	空間を運ばれる	<p>C : 下肢の力を抜き（脱力し）膝折れを起こす。 D : リフト…豚みたい。 E : 怖がる。 F : 近くにあるものをつかんで離さない。 G : 大きな声を出す。 J : 次の動作ができない（うまく方向転換できない）。 K : 足踏みして、介護負担が増える。</p>	<p>D : 意識を別に向けられるコミュニケーション。 E : 不安がないように話しながら、身体を密着させる。 F : 手を胸腹部においてから介助する。 G : 「大丈夫ですよ」と声かけしながら行う。 J : 足を1歩前に出してなど声掛け。</p>	1
110203	車椅子に乗せられる	<p>A : 体を硬直させる。 E : 車椅子の部分につかまろうとする。 I : 急に座る。 K : 座れない、すぐ立ち上がる。</p>	<p>A : 臀部から座面に着けるように、腰部を軽く押す。 E : 怪我の内容に、常に注意を払う。 G : 「大丈夫でしたか？」と再度声かけする。 I : ゆっくりするよう声かけ。</p>	2
110204	体の各部 お尻、脚、脚、上肢を車椅子の適切な部位に置く	<p>A : 指示が理解できない。混乱する。 D : 足をフットレストではなく、カーに置く。 E : ステップに足をのせることをしない。 G : 触ろうとすると、抵抗する。 I : お尻が半分しか座面に乗っていない。 J : 傾いていても自ら修正しない。 L : 半分以上できない；アームに座ろうとしたり、シートの前方に腰を下ろす。</p>	<p>E : 介助。 G : 触ることを説明し、理解を促すように声かけする。 I : 立ちあがってから移乗するように誘導。 J : 正しい位置へのポジショニング・口頭指示。</p>	3
110205	望ましい肢位を維持する	<p>A : アームレストから腕が落ちる。 D : スレ落ちる。 E : おしりが前にずれる。 J : 傾いていても自ら修正しない。 K : 仙骨座りになる 体が傾く。</p>	<p>A : 膝の上に手を置く。 E : こまめに直す。 J : 随時、ポジショニング、クッションなどの利用。</p>	3
110206	体が車椅子から離される	<p>D : たたく、つまむ、拒む。 E : 何をされるのか声をかけても不安になる。 F : 介護者の体に力いっぱいしがみつく。 G : 恐怖心や急な環境の変化に適應できない為か、大きな声を出したり・身体を突っ張らせて抵抗する。 H : ベッド柵や車椅子アームレストを離さない。 J : 重心の移動がうまくできず、後方へ突っ張ってしまう。</p>	<p>E : 身体につかまるように促す。 F : 介護者がしっかり利用者の体を支える、安心できる声掛け。 G : 何をやる為にベッドに移ることを説明し、一緒に動いて頂くように声かけする。 H : 移動先を充分説明したり、触ってもらう。 J : 重心の移動を促し、声掛けし不安をなくす。</p>	1
110207	空間を運ばれる	<p>E : しがみつく。 G : 恐怖心や急な環境の変化に適應できない為か、大きな声を出したり・身体を突っ張らせて抵抗する。 J : 体の回旋が出にくい。</p>	<p>E : 不安がないように安全に配慮して介助。 G : 何をやる為にベッドに移ることを説明し、一緒に動いて頂くように声かけする。 J : 回旋するような上肢や体幹の誘導。</p>	1
110208	ベッド上に乗せられる	<p>C : 立位から座る際に、強く力が入り座ろうとしない。介助しようとする怒りだしたり拒否してしまう。 E : 乗ったことを自覚するまで不安がある。</p>	<p>E : 落ち着くまで手を握る。 G : 「大丈夫でしたか？」と再度声かけする。</p>	1
110299	その他	<p>C : 普段、床に布団を敷いて寝ていた方が、ベッドで就寝し夜間に目を覚まし、どうして降りたら良いかわからず飛び降りてしまい、踵骨骨折を起こした。 I : フットサポートに足を乗せたまま立ち上がる。 K : すぐに立ち上がる、前方に転倒する。</p>	<p>I : フットサポートから足を下ろすように誘導。</p>	

3) 自動車の乗り降り

110301	足を地面から車内 に上げる	A: 指示するとできない。 D: 指示が通らない・膝から這うように上がる。 E: 足より手が先に出る。 G: 施設での車の使用は、リフト車である為車いすでの乗車となる。 K: 頭から両手を入れて乗り込もうとする。 L: できない: 誘導試みたと怒り出す。 M: 車にのることが理解できないので時間がかかる。 N: 車に乗ることを拒否し暴れる。日常のと環境が異なるため出かけることが不安になる人もいる。リフト車やワゴン車など普段乗り慣れない車だと一連の動作ができない。	A: 黙ってみておく。 D: 手順を伝えて、誘導。 E: 足を少し持ち上げる。 K: 助手席の窓を開けてしっかりとつかまられるようにする。 L: 車椅子に乗りしてもらいそのまま乗車。 M: 複数で声かけし誘導してもダメなときは車イスに腰かけてもらい、車いすごと乗車できる車に乗ってもらう。複数で声かけし介助する。途中で乗り込めなくなった方は足を上げるなどの介助をして乗車してもらう。	6
110302	体をかがめてドアの 内部に入る	A: 体をかがめる意図がわからず、大きな声で抵抗。 D: 足をつっぱたまま・頭を打つ・かがめない。 E: 空間が解らず、頭をぶつけやすい。 G: 施設での車の使用は、リフト車である為車いすでの乗車となる。 K: 横向きに 外側を向いて座ろうとする。	A: 指示は必要最小限にして、本人の自動行動を待つ。 E: 頭を保護。	6
110303	車内に乗り込む	A: 重心が崩れるために、抵抗。 D: 足は入るが、急に座りこむ。 E: 狭い空間に入ることを嫌がる。 G: 施設での車の使用は、リフト車である為車いすでの乗車となる。	A: 指示は必要最小限にして、本人の自動行動を待つ。 E: ①反対のドアの方から誘う②ワーカーが先に乗る。	6
110304	座席に前向きに座 る	A: 介助すると怒る。 B: 向きを間違えて座ろうとしてフットレスト部分に正座してしまう。 G: 施設での車の使用は、リフト車である為車いすでの乗車となる。	A: 指示は必要最小限にして、本人の自動行動を待つ。 B: 乗り込むときに (右) 向きを決められる足から入るように指示する。	2
110305	座席から腰を上げ る	A: 介助すると怒る。 E: おしりをずらしながら動く事が難しい。 G: 施設での車の使用は、リフト車である為車いすでの乗車となる。	A: 指示は必要最小限にして、本人の自動行動を待つ。 E: 声かけ。	3
110306	ドアの横に移動	D: 動かない。 E: ドアが開くまで、動かず。 G: 施設での車の使用は、リフト車である為車いすでの乗車となる。	E: 声かけ。	2
110307	ドアを開ける	B: 走行中にドアを開ける。 E: 間違えて窓を開けてしまう。 G: 施設での車の使用は、リフト車である為車いすでの乗車となる。	B: チャイルドロック等を使う。 E: 危険のないよう配慮。	3
110308	体をかがめる・座位 のままで	G: 施設での車の使用は、リフト車である為車いすでの乗車となる。 K: 空間を回り動くことは苦手で力が入りすぎ支援しにくい。	K: 平行棒をくぐる練習や環境適応訓練、障害物ジムが有効。	2
110309	ドアの外に脚を出 す	A: 介助すると怒る。 G: 施設での車の使用は、リフト車である為車いすでの乗車となる。	A: 指示は必要最小限にして、本人の自動行動を待つ。 E: 介助。	1
110310	頭を下げて地上に 両足をつける	A: 介助すると怒る。 E: 高さが解らず、段差を怖がる。 G: 施設での車の使用は、リフト車である為車いすでの乗車となる。	A: 指示は必要最小限にして、本人の自動行動を待つ。 E: 足がつくまで支える。	2
110399	その他	D: ステップが届かないのに、足だけ先に出る。 F: 車自体がわからず、乗車を拒む。 G: 施設での車の使用は、リフト車である為車いすでの乗車となる。 I: 車に乗ることを拒否。 K: 走行中にドアの弾き手を引いてドアを開けてしまった。	I: デイクアでの送迎は、家族送迎、同伴で慣れる。	1

XII 座る

生理機能 生理機能はない

概念 体と椅子の位置関係を適切に保って座れるか?

各行為についてケアが難しかった 生活障害の具体像	その生活障害にどのようなケア (介助) をしたら上手くいったのか	全介助の きかけと なる 生活障害
-----------------------------	-------------------------------------	----------------------------

1) お尻の位置がポイント

120101	お尻の位置	A: どの位置にあるかわからない。 B: 座る位置を間違えて手摺に座るなどがある。 C: 座る位置が浅く、背もたれにもたれ前方にずり落ちてしまう。 D: 多くは浅め。 E: 浅く座る。 G: 中途半端に座る。斜めに座る。 H: 浅く座っている。 J: 徐々に前方へずれていき、ずり落ちてしまう。 K: 椅子に向かって座ろうとする、回転のイメージが混乱。 L: できる: 座ってしまえば可能。 M: 前の方に座りがち。	A: 全介助。 B: 椅子を移動させる。 D: 言葉かけ・椅子を押す・身体をかかえる。 E: 後ろに少しずつ下がってもらう。 G: 声かけて修正促すも、修正できない際は介助する。 H: 深く座るよう伝える。 J: 定期的にポジションの確認、長時間同じ場所での座位を行わない空間の移動を意識して行う。意識して立ち上がり・立位をとる。	6
120199	その他	C: 椅子の位置を確認せずに座ろうとし転倒される。 I: すぐに立ち上がる。	B: 座る姿勢に入る前に立ち位置を決める。 I: アクティビティの提供。話をする。お茶。トイレ。 J: 除圧できるクッションの導入。前方での活動を提供し座位での重心の移動を促す (清拭まきやエプロン畳み)。	1

2) 体幹の位置・姿勢

120201	体幹の位置・姿勢	A: 前屈み。 C: 肘掛から側方に倒れかかる。 D: 中心を取れない、橋に座る。 E: おしりを置いた位置をそのまま直そうとしない。 H: 傾きがある。 J: ずり落ち、側方への傾き、うつぶせ。 K: 4 5 度くらいの回転で座ろうとしてしまう。 L: できる: 座ってしまえば可能。 M: 傾いている 椅子と机が斜めになっていても座る。	A: 椅子の工夫。ウレタンで背中を受け止める形状につくる。 D: 言葉かけ・椅子を押す・身体をかかえる。 E: 介助。 H: クッション等で対応。 J: 定期的にポジションの確認、修正 (クッションの利用)。 K: 空間定位・回転動作は、リハ訓練に多用する。 M: 声掛けして正常な位置に戻す。	7
120299	その他	J: 車いす、椅子、テーブルなどが個人の体に合っているか確認。活動の提供・周囲の環境を考えた席ぎめ。		

3) 下肢の位置・向き

120301	下肢の位置・向き	C : 車椅子のフットレストの外側に足を出してしまふ。 D : 端におく。 J : 膝を伸展位にしている・足関節がねじれた状態である。 L : できる：座ってしまえば可能。	J : 床面に設置するようにする。必要ならば足台を使う。フットレストを外す。	4
120399	その他			

4) 上肢の位置

120401	上肢の位置	J : 体の背中や車いすのタイヤなどへの巻き込みによる怪我。 K : 椅子を両手でつかんでしまふ膝で座ろうとする。 L : できる：座ってしまえば可能。	J : 車いすの肘掛などにスポンジや布をあてる・ぬいぐるみなどを抱えている。	2
120499	その他			

5) 座位の維持

体のパーツごとに：評価という観点

120501	ねじれ	A : テレビに向けてばかりいる。 E : 正面にきちんと座れない。 H : 傾き等によって維持できない。 J : 半側無視や、筋力低下、痛みなどによる体幹・頭のねじれ。 K : 麻痺の影響が難場合 腰痛の左右差 機能的側湾曲。	A : テレビを正面に位置する。 E : 介助して直す。 H : クッション等に対応。	2
120502	位置	A : 傾く(覚醒度によって、日々変化)。 H : 傾き等によって維持できない。 K : 前側・奥側。 L : できる：座ってしまえば可能。	A : 前夜の様子を聴取して、対応を変化。 E : 介助して直す。 H : クッション等に対応。	1
120503	姿勢	A : 前屈み。 C : 後ろにそってしまふ、前方に倒れ掛かり転落する。 G : 何度も修正するが、臀部をずらし座ってしまふ。 H : 傾き等によって維持できない。 J : 頭の後屈。 K : 前傾・後傾・側湾・円背。 L : できる：座ってしまえば可能。	A : 福祉用具併用。 E : 介助して直す。 G : 繰り返し声かけし、修正促す。 H : クッション等に対応。 J : ヘッドレスト。	3
120504	向き	A : 傾く(覚醒度によって、日々変化)。 H : 傾き等によって維持できない。 L : できる：座ってしまえば可能。 M : 椅子と机の距離が遠い時がある。	A : 前夜の様子を聴取して、対応を変化。 E : 介助して直す。 H : クッション等に対応。	
120505	自圧迫は	A : じっとしたまま。	A : 福祉用具併用。 E : 介助して直す。	1
120599	その他	J : じっとしていられず頻回に立ち上がる。 J : 崩れた姿勢を修正することができない。	J : 興味の持てる活動の提供、一度一緒に歩行して落ち着いたら席へ誘導。 J : 適宜正しい座位へ誘導。立ち上がり動作や立位を行ない座りなおしてもらふ。	

XIII 仰臥位

生理機能	生理機能はない
------	---------

概念	ベッドや布団で寝る為に仰向けになる必要がある
----	------------------------

各行為についてケアが難しかった生活障害の具体像	その生活障害にどのようなケア(介助)をしたら上手くいったのか	全介助のきっかけとなる生活障害
-------------------------	--------------------------------	-----------------

1) 仰向けであること

130101	仰向けであること	A : じっとしたまま。 D : 仰向けにできない・側臥位。 E : ベッド柵に捉まろうとして横を向く。 K : 横向きに丸まって寝る方が多い。	A : 福祉用具 (エアーマット)。 E : 一度横になってから用具を使用しずらす。	
130199	その他	J : 体動多く、ベッドからの転落。	J : 離床センサーでキャッチする。	

2) ベッドや布団などの長軸に体が平行の位置にあること

130201	ベッドや布団などの長軸に体が平行の位置にあること	B : 向きがわからない。 D : 体がぐるぐる回る。 E : ずっと仰向けはむずかしい。 H : 体動が多く、転落等の危険性がある。 J : ベッドに斜めに臥床し、足を出してしまふ。 K : 枕に頭を合わせようともが、失行状況が見られやすい。 L : 出来ない：布団以外のところでねる、思ったところになてしまふ。 M : マットレスの下にもぐって寝ている。ぬいぐるみ子供と飲み込み、ぬいぐるみを真ん中に寝かせ自分は端っこで寝返りもうたず寝ている。	B : かけ布団を縦長に盛り上げて位置を理解してもらふ。 D : 止められない・転落を予防。 E : 介助で修正する。 H : ベッド柵にカバーを取り付ける。 J : ベッドの高さの検討。センサーなどで転落を防ぐ。 K : 手をとって枕を触らせる誘導しやすい。 L : そのままねてもらい掛け布団をかける。 M : 熟睡していたらマットレスをはずし掛け布団をかけなおして様子を見る。本人が起きそうだったら声掛けし敷布団の上に誘導。ぬいぐるみは1つだけ渡し他はみつからないように介護者が預かる。ベッドで休むスペースをとってもらふ。	3
130299	その他	J : 不随意的な運動・自傷行為による皮膚剥離や内出血。 K : 布団や毛布をうまく掛けられない、体はみ出して直せない。	J : ベッド柵にクッション性のあるカバーをまく。 K : 介助して修正しないと、上手に掛けられない。	

3) 頭部・体幹・上肢・下肢の姿勢と位置関係が適切であること

130301	頭部・体幹・上肢・下肢の姿勢と位置関係が適切であること	A : 同じ向きばかりの姿勢で眠る。 E : 上向きだが、腰の位置がずれる等見られる。 K : ベッド・布団上で体が傾いても伸く修正できない。	A : 福祉用具 (エアーマット)。 E : 適切な位置に動かす(介助)。 K : 就寝時は言語指示や体を触れての誘導が届きにくい。	3
130399	その他			

4) 自圧迫は

130401	自圧迫は	A : 同じ向きばかりの姿勢で眠る。 E : 一度した形のまま動かさない。	A : 福祉用具 (エアーマット)。 E : 時々介助にて、動かす。	2
130499	その他	K : 眠ってしまえば割合スムーズに寝返りが出来ることが多い。		

XIV お化粧

生理機能 生理機能はない

概念 容姿を整える概念は保持されているか？

	各行為についてケアが難しかった生活障害の具体像	その生活障害にどのようなケア(介助)をしたら上手くいったのか	全介助のきっかけとなる生活障害
--	-------------------------	--------------------------------	-----------------

1) 鏡の前に行く、適切な位置に立つ・すわる：身体と鏡の位置関係

140101	鏡の前に行く	A：化粧に関しては、対応した例はないです。しかし、メイクに化粧が明らかにおかしい方が数名おられますので、その現状を下記に示します。 E：身を整えたいから行くわけではない。 K：初期に鏡を嫌がることもある、自分らしくない不安感がある様子。	E：整容のための言葉がけをする。	2
140102	適切な位置に立つ・すわる	K：鏡に向かって立てるが動いてしまう自分に影響されて戸惑う。	M：化粧をする方はたいていできる。	2
140199	その他			

2) 髪を整える

140201	ブラシ、くしを持つ	E：自らとうとうしない。 K：ブラシ・くしを持ってなくなるのは、進行期のIVかM。 M：義歯用のブラシをくしと間違えてしまう。	E：渡せば自分で整える。 M：声掛けしてくしを渡す。	3
140202	ブラシ、くしで髪を整える	E：自らとうとうしない。 K：効率良くない、洗髪後のブラッシングが決まらない、片側ばかり。	E：渡せば自分で整える。	3
140203	髪を整える、鏡を見て確認する	E：自分の姿と思わず話を始める。 K：以前は気にしていた部分に無頓着になってしまう。	E：ワーカーが整えを共にする事で、気づく。	2
140299	その他	C：ブラシを髪にあてない。 K：髪を自分で切ってしまう方であった。		

3) 化粧品（化粧水や乳液、下地クリーム、おしろいなど）を順番に適量手やパフに取り出す

140301	化粧品のふたを使う順番にあける	K：化粧品の置き場所がバラバラになり整頓できない。	L：道具の管理はできない、汚れたパフを使い続ける 化粧水や乳液が重複している⇒化粧箱の中身の管理は職員が行う。	1
140302	適量の化粧品を手やパフなどに取り出す	K：つける順番を間違え 同じものを二度つける。 M：適量出せない。	M：介助する。化粧品も介護者が管理する。	1
140303	化粧品のふたを閉める	K：ふたの開けっぱなしやつかつたところに置きっぱなしが目立つ（初）。		
140399	その他			

4) 化粧品を顔全体にまんべんなくつける

140401	化粧品を顔全体の皮膚にまんべんなくつける	K：注意深く適量は難しくなる。 M：適量つけられない。	M：塗り過ぎたり塗り残しがないか確認 介助する。	1
140402	化粧品を眼や唇につくことは避ける	M：顔中にまんべんなく塗ってしまう。	M：塗り過ぎた部分をぬくい整えてあげる。	
140499	その他			

5) 口紅をつける

140501	口紅のふたを開ける		E：介助。	
140502	口紅を適量出す（出し出す）	A：適量がわからない。 E：回しすぎ。調整しない。 K：回しだすことは上手くできなくなることもある。	E：適度な長さに出す。	2
140503	口紅を紅筆に適量つける	A：過剰に塗っている。 M：紅筆は使用せず直接塗る人が多い。		1
140504	唇に紅筆で適量つける	A：過剰に塗っている。		
140505	唇の形を紅筆で適切に整える	A：唇からはみ出ている。 K：巧緻性・協調性低下し、同じところを塗り重ねる。 M：まがったりはみ出たりする。	M：形をととのえてあげる。	
140506	口紅を戻す（直し入れる）	K：回しての操作は難しくなる。スティックのり等においても。 M：口紅を戻すのを忘れる。	E：介助。 M：口紅を戻す介助をする。	1
140507	口紅のふたを閉める	K：開けることより難しい。	E：介助。	1
140599	その他			

6) まゆげをつける

140601	まゆげを適量出す	K：回しだす調整は難しい、出し過ぎて折ってしまう。		1
140602	眉毛にまゆげを適量つける	A：適量がわからない。黒々と塗っている。 K：上手くは描けず、やめてしまう。		2
140603	眉毛の形をまゆげで適切に整える	A：眉毛が眉間もつがっている。 C：異常に太く、大きく描く。 K：左右や高さを揃えられない。 M：太すぎたり眉毛の線を何本も引いたりする。	M：形をととのえてあげる。	1
140604	まゆげをしまう	K：回ししまう調整は難しい。		1
140699	その他	C：眉にこだわり描こうとされるが、マユズミがなければマジック等で描いてしまう。		

7) 頬紅をつける

140701	頬紅のふたを開ける	K：開け方にバラエティがありなれないやり方は習得できず使えない。		1
140702	頬紅を適量だけ筆につける			2
140703	頬紅を頬に適量つける	A：真っ赤化になっている。		1
140704	頬紅のふたを閉める	K：小さい刷毛を一緒に入れてよとしてふたが閉まらない。		1
140799	その他			

8) 鏡を見てお化粧の出来栄を確認する

140801	鏡を見てお化粧の出来栄を確認する	A：真っ赤化になっておかしくても、自覚できない。 E：確認しようとしなない。 M：本人は大丈夫と思っている。	E：手鏡をお渡しする。	
140802	化粧品（化粧水や乳液、下地クリーム、おしろいなど）を元の位置に戻す	K：これらの整理は困難になる冷蔵庫内の整頓が出来ないのと同じ。 M：わからない。間違えて口にする場合もある。	M：化粧水等は介護者が管理し、入浴後などに使用してもらう。	
140899	その他			

9) 様々な質的異常

140901	化粧品ではないものを使う（例：口紅を頬紅代わりに塗ってしまう、眉墨代わりにマシクなど）	A：例に似せている。頬紅に口紅、頬にマシクは実際にある。 C：眉にごたわり描こうとされるが、マユズミがなければマシク等で描いてしまう。 E：歯磨き粉を頭に塗ってしまう。 K：石鹸を唇に塗ろうとしていた場面があり。 M：マシクなどペンを買してほしいと訴える。	M：化粧品の管理を行う。マシクなどを部屋におかない。	2
140902	お化粧の技術的問題（例：口紅が唇からはみ出す、眉墨のラインが複数できる）	A：はみ出ているのは日常的。 M：眉毛がかかなくなったり、口紅が引けなくなる。	M：介護者が必要に応じて手伝う。	2
140903	お化粧に費やす時間が長い（例：眉にごたわって数時間費やす）	K：修正して拭きとり、困惑して出かけるのをやめる。 M：眉毛をいつまでもかいている。		2
140904	一回に使用する化粧品の量が多い	M：適量出せないで化粧品がすぐなくなる。	M：介護者が管理をする。	1
140999	その他	A：眼科疾患も併発している場合もあり、認知面だけで理解しないようにしている。		

XV 男性の髭剃り

生理機能 生理機能はない

概念 身だしなみ・整容として髭を剃ろうと思うか？

各行為についてケアが難しかった生活障害の具体像	その生活障害にどのようなケア（介助）をしたら上手くいったのか	全介助のきっかけとなる生活障害
-------------------------	--------------------------------	-----------------

1) 鏡の前に行く、適切な位置に立つ・すわる：身体と鏡の位置関係

150101	鏡の前に行く	E：鏡の前ではない。 J：職員管理。 L：できない。 M：できない。	L：本人が座っている場所で行う。 M：準備や誘導をする。	3
150102	適切な位置に立つ・すわる	J：職員管理。 M：できない。		2
150199	その他	J：職員管理。		

2) 髭剃り器の置き場から髭剃り器本体を取り出す

150201	髭剃り器の置き場から髭剃り器本体を取り出す	A：できない。 J：職員管理。 L：できない；いじっているかもたない。	E：介助。 L：職員が行う。 M：あらかじめ準備をしておけばできる。	3
150299	その他	J：職員管理。 L：できない；いじっているかもたない。	L：職員が行う。	

3) 髭剃り器のスイッチを入れる

150301	髭剃り器のスイッチを入れる	A：できない。 J：職員管理。 K：慣れたスイッチの操作が出来なくなるのは自立度Ⅳからの印象。 L：できない；いじっているかもたない。	E：介助。 L：職員が行う。 M：できないときは代わりにスイッチを入れて渡す。	5
150399	その他	J：職員管理。 L：できない；いじっているかもたない。	L：職員が行う。	

4) 髭剃り器を正しく持つ

150401	髭剃り器を正しく持つ	J：職員管理。 K：力が入りすぎる 不適応な把持。 L：できない；いじっているかもたない。	E：渡せば持つことが出来る。 L：職員が行う。	6
150499	その他	J：職員管理。 L：できない；いじっているかもたない。	L：職員が行う。	

5) 刃先を頬や顎に当てる

150501	刃先を頬や顎に当てる	G：音に怖がり、暴れる。 J：職員管理。 K：あてる角度を上手く調整できない。 L：できない：いじっているかもたない。	G：一緒に持って頂き、当てるように誘導する。 L：職員が行う。	7
150599	その他	J：職員管理。 L：できない：いじっているかもたない。	L：職員が行う。	

6) 当てた場所の髭を剃る

150601	当てた場所の髭を剃る	A：適切な場所に当たらない。 G：その場所から動かない。 K：同じところを繰り返し剃ってしまう。 L：できない：いじっているかもたない。	A：手を持って一緒に動かす。 G：剃ることを声かけする。 L：職員が行う。	5
150699	その他	L：できない：いじっているかもたない。	L：職員が行う。	

7) 次の箇所へ刃先を移してゆく

150701	次の箇所へ刃先を移してゆく	E：まんべんなく出来ない。 J：同じところばかりそる。 L：できない：いじっているかもたない。 M：同じ所ばかり剃っている。	E：顔に触れて違う部分を示すであげ、自分で気づきを持つ。 J：具体的に指摘（わかりやすく）。口頭指示で困難な場合は触れて促す。 L：職員が行う。 M：違うところも剃るように言う。	5
150799	その他	L：できない：いじっているかもたない。 M：首近くの髭は剃れない。	L：職員が行う。 M：介護者が剃る。	

8) 万遍なく剃れたかどうかを確認する

150801	万遍なく剃れたかどうかを確認する	D：長時間反り続ける。 E：全てそれたかを確認はしない。 H：剃り残しがある。 J：そりむらがある。 L：できない：いじっているかもたない。	D：本人が納得するまでとめられない。 E：自分でさわっていただく。 H：残っている部分を鏡で確認しながら行うよう促す。 J：鏡や実際に触れてもらいそれていないことを確認してもらうよう促す。 L：職員が行う。 M：介護者が行う。	5
150899	その他	D：カバーが破れていても、そり続ける。 L：できない：いじっているかもたない。	L：職員が行う。	

9) 髭剃り器のスイッチを切る

150901	髭剃り器のスイッチを切る	K：スイッチを入れることより切ることの方が難しい印象。 L：できない：いじっているかもたない。	E：介助。 L：職員が行う。 M：出来ないときは代わりにスイッチを切る。	4
150999	その他	K：スイッチを入れたり切ったりしてしまう。 L：できない：いじっているかもたない。 M：後始末（掃除）はできない。	L：職員が行う。 M：介護者が定期的に掃除する。	

10) 髭剃り器の置き場に戻す

151001	髭剃り器の置き場に戻す	K：下に置く・棚に置くは出来るが扉の中には難しい。 L：できない：いじっているかもたない。	E：介助。 K：普段使う物は使いやすいところに配置し、混乱をふせぐ。 L：職員が行う。 M：出来ないときは介護者が片づける。	4
151099	その他	L：できない：いじっているかもたない。	L：職員が行う。	

11) 様々な質的異常

151101	費やす時間が長い（例：髭剃りに数時間費やす人もなど）	K：声をかけないと行為を切り替え、終了しにくい。 L：できない：いじっているかもたない。 M：いつまでも剃っている。	L：職員が行う。 M：髭がそれていたら声かけて髭そりをやめてもらう。	3
151199	その他	A：剃れた場所とそうでない場所がいつも一緒。 E：言わないとひげを剃ろうとしない人が多い。 L：できない：いじっているかもたない。	L：職員が行う。	

XVI 義歯洗浄

生理機能 生理機能はない

概念 衛生の概念は保たれているか？

各行為についてケアが難しかった生活障害の具体像	その生活障害にどのようなケア（介助）をしたら上手くいったのか	全介助のきつかけとなる生活障害
-------------------------	--------------------------------	-----------------

1) 朝の装着

160101	義歯洗浄液と義歯の入ったケースを取り出す	C：義歯洗浄剤を食べ物と間違え、飲み込んでしまう。 G：紛失・洗浄液誤飲防止目的にて、基本的には職員管理。装着まで、確認。 J：基本的には職員管理。 K：義歯や義歯ケースをしまった場所が分からなくなる。 L：動作は可能だが行っていない。 L：できない：支持の理解ができない。 M：自分のものがわからない。	A：介助。 E：ワーカーが介助している。 L：ポリドントの認識がないため洗わずに装着するので洗浄したものを置いておく。 L：職員が行う。 M：介護者があらかじめ準備する。	7
160102	ケースを洗面所に持ってゆく	E：意識して持とうとはしない。 G：紛失・洗浄液誤飲防止目的にて、基本的には職員管理。装着まで、確認。 J：基本的には職員管理。 K：意外な場所にしまつて驚く（調味料棚・仏壇）。 L：動作は可能だが行っていない。 L：できない：支持の理解ができない。 M：できない。	A：介助。 E：ワーカーの声かけ。 L：職員が行う。	6
160103	ケースから義歯を取り出す	G：紛失・洗浄液誤飲防止目的にて、基本的には職員管理。装着まで、確認。 J：基本的には職員管理。 L：できない：支持の理解ができない。 M：できない。	A：介助。 E：介助。 L：職員が行う。	7
160104	水道栓を回して水を出す	A：どうしてよいかわからない。（回し方がわからない）。 G：上下レバーが理解できない。 G：紛失・洗浄液誤飲防止目的にて、基本的には職員管理。装着まで、確認。 J：基本的には職員管理。 L：できない：支持の理解ができない。	A：じっと待つ。できないようなら、ゼスチャーで視覚的に指示。 E：介助 G：口頭指示にて実施可能。行えない場合は介助行う。 L：職員が行う。	5
160105	義歯全体を水道の流水で洗う	A：水を流していれば、することもある（いつもではない）。 E：洗いながら義歯を折る（歯と認識しない）。 G：紛失・洗浄液誤飲防止目的にて、基本的には職員管理。装着まで、確認。 J：基本的には職員管理。 L：出来ない：洗わずに口の中に入れようとする。 L：できない：支持の理解ができない。 M：水が出ればできる。	E：様子を見てワーカーが洗う。 L：洗ったものをわかるどころにおいておく。 L：職員が行う。	5
160106	口を開ける	A：口を開けない。 E：口を開けず拒否をする。 G：紛失・洗浄液誤飲防止目的にて、基本的には職員管理。装着まで、確認。 J：開けようとしな。拒否？ L：できない：支持の理解ができない。	A：入れ歯で口の端をつつく。 E：慌てず時間をかけ話しながら、入れるよう配慮。 G：口をあけるように声かけを行う。 J：義歯であることを認識できるような声掛け。困難であれば時間を置いて再度うながす。 L：職員が行う。	3
160107	義歯を口の中にはめこむ	E：上手く装着できない。 G：手渡すと遊んでしまう。 G：紛失・洗浄液誤飲防止目的にて、基本的には職員管理。装着まで、確認。 L：できない：支持の理解ができない。 M：他人の義歯をはめようとする。	A：介助。 E：一緒に手伝う。 G：介助し装着する。 L：職員が行う。 M：間違えやすい人は時間をずらして最後にゆっくり対応する。	5
160108	ケースをしまう	G：紛失・洗浄液誤飲防止目的にて、基本的には職員管理。装着まで、確認。 K：ケースでなくタオルにくるんで仕舞う、孫がけをした。 L：できない：支持の理解ができない。	A：介助。 E：介助。 L：職員が行う。 M：出来ないときは介護者が片づける。	4
160199	その他	G：紛失・洗浄液誤飲防止目的にて、基本的には職員管理。装着まで、確認。 J：義歯を紛失する（捨ててしまう）。 K：義歯を煮沸消毒症として焦がした。 L：できない：支持の理解ができない。	J：食事中のみ装着する。職員管理。 L：職員が行う。	

2) 食後の洗浄

160201	洗面所に行く	J : 困難者は職員管理。 L : 半分以上可能；声かけないと行かない。 L : できない；支持の理解ができない。 M : できない。	L : 食事の後声かける。 L : 職員が行う。	2
160202	口を開ける	B : 口をあけることを認識できない。 J : 困難者は職員管理。 L : できない；支持の理解ができない。 M : できない。	B : 冷たい水が入ったコップをあてて飲んでもらう。 G : 口をあけるように声かけを行う。 L : 職員が行う。 M : 声かけするとできる。	4
160203	義歯を外す	E : 口を開けるが外すことが出来ない。 G : 外さない。 J : 困難者は職員管理。 L : できない；支持の理解ができない。	B : 場所を変える。 E : ワーカーが介助している。 G : 洗うことを説明し外すように促す。外せない場合は介助。 L : 職員が行う。	8
160204	水道栓を回して水を出す	J : 困難者は職員管理。 L : できない；支持の理解ができない。	L : 職員が行う。	4
160205	水流の位置に義歯を置く	J : 困難者は職員管理。 L : できない；支持の理解ができない。	E : 介助。 L : 職員が行う。	5
160206	ブラシで義歯を磨く（自分の歯が残っている場合は、普通の仕方では歯磨きをする）	E : 義歯を磨くが、丁寧に磨くことは出来ない。 J : 困難者は職員管理。 L : できない；支持の理解ができない。	E : 一度洗っていただいたものをざりげなく洗い直す。 L : 職員が行う。	6
160207	ブラシを元の場に戻す	J : 困難者は職員管理。 L : できない；支持の理解ができない。 M : ブラシを元の場に戻す動作はできないので自分の義歯が解からなくなったりとトラブルになる。	E : 介助。 L : 職員が行う。 M : 常に見守りと声掛けをしてそばについて対応する。	4
160208	水道栓を回して水を出す	A : どうしてもよいかわからない（回し方がわからない）。 G : 上下レバーが理解できない。 J : 困難者は職員管理。 L : できない；支持の理解ができない。 M : ブラシを元の場に戻す動作はできないので自分の義歯が解からなくなったりとトラブルになる。	A : じっと待つ。できないようなら、ゼスチャーで視覚的に指示。 E : 介助。 G : 口頭指示にて実施可能。行えない場合は介助を行う。 L : 職員が行う。 M : 常に見守りと声掛けをしてそばについて対応する。	3
160209	流水をコップに受ける	G : 量の調節ができない。 J : 困難者は職員管理。 L : 出来ない；受けたとしてもあふれてそのまま。 L : できない；支持の理解ができない。 M : ブラシを元の場に戻す動作はできないので自分の義歯が解からなくなったりとトラブルになる。	E : 介助。 G : レバーの操作を職員側で調節する。 L : 職員が行う。 M : 常に見守りと声掛けをしてそばについて対応する。	4
160210	水道栓を回して水を止める	A : 水を出せなくても、止めることはできることが多い。 J : 困難者は職員管理。 L : できない；支持の理解ができない。 M : ブラシを元の場に戻す動作はできないので自分の義歯が解からなくなったりとトラブルになる。	L : 職員が行う。 M : 常に見守りと声掛けをしてそばについて対応する。	3
160211	口に水を吸い込む	A : 吸い込むと、飲み込む。 E : 水を少ししか吸わない（ほんの一口）。 L : できない；支持の理解ができない。 M : ブラシを元の場に戻す動作はできないので自分の義歯が解からなくなったりとトラブルになる。	A : 悩み中。 E : 吸い込む数を増やす。 L : 職員が行う。 M : 常に見守りと声掛けをしてそばについて対応する。	3
160212	口をゆすぐ	A : 口の中に溜めない。 E : 口をすすがず、口に含んで出す。 G : 水を口に含んだまま、動かない。 L : できない；支持の理解ができない。 M : ブラシを元の場に戻す動作はできないので自分の義歯が解からなくなったりとトラブルになる。	A : 悩み中。 E : ワーカーが見本を見せていただく。 G : 「ブクブクしますよ」と声かける。 L : 職員が行う。 M : 常に見守りと声掛けをしてそばについて対応する。	3
160213	口の中から水を出す	A : 飲み込んでしまう。 E : 飲み込んでしまう。 G : 水を口に含んだまま、吐き出さない。 J : 飲み込んでしまう。 L : できない；支持の理解ができない。 M : ブラシを元の場に戻す動作はできないので自分の義歯が解からなくなったりとトラブルになる。	A : 悩み中。 E : ワーカーが見本を見せていただく。 G : 少し多めに口に含ませ、吐き出させる。 J : 掛け声「べーべー」など。隣で一緒に行う。 L : 職員が行う。 M : 常に見守りと声掛けをしてそばについて対応する。	3
160214	義歯を口の中にはめこむ	E : 義歯の上下を間違えてしまう（上手くはめられない）。 G : 手渡すと遊んでしまう。 L : できない；支持の理解ができない。 M : ブラシを元の場に戻す動作はできないので自分の義歯が解からなくなったりとトラブルになる。	A : 介助。 E : 上下を言葉で伝え、直接助けながら示す。 G : 口をあけるように声かけ、介助する。 L : 職員が行う。 M : 常に見守りと声掛けをしてそばについて対応する。	4
160299	その他	C : 食後、茶碗のなかで洗う（お茶で）、義歯をはずし隅々までシャブル。 L : できない；支持の理解ができない。	L : 職員が行う。	

3) 就寝前の洗浄

160301	義歯ケースを出して くる	G: 紛失・洗浄液誤飲防止目的にて、基本的には職員管理。 J: 職員管理。 L: 預かっているので行わない。 L: できない: 支持の理解ができない。	A: 介助。 E: 介助。 L: 職員が行う。 L: 職員が行う。 M: 介護者があらかじめ準備している。	6
160302	義歯ケースに水を入 れる	A: 適切な水量で止められない。 G: 紛失・洗浄液誤飲防止目的にて、基本的には職員管理。 J: 職員管理。 L: 動作はできる。 L: できない: 支持の理解ができない。	A: 介助。 E: 介助。 L: 職員が行う。 L: 職員が行う。 M: 介護者が行う。	6
160303	義歯洗浄剤(ポリ ドント)を入れる	A: 食べよとする。 G: 紛失・洗浄液誤飲防止目的にて、基本的には職員管理。 J: 職員管理。 L: ポリドントも預かっている。 L: できない: 支持の理解ができない。	A: 介助。 E: 介助。 L: 職員が行う。 L: 職員が行う。 M: 介護者が行う。	6
160304	口を開ける	A: わからない。 D: 口をあけない。 G: 紛失・洗浄液誤飲防止目的にて、基本的には職員管理。 J: 職員管理。 L: できない: 支持の理解ができない。	A: 口の端をつつく。 G: 口をあけるように声かけを行う。 L: 職員が行う。	4
160305	義歯を口から取り 出す	A: 出せない。 E: 取り出そうとするが、上手くはずれない。 G: 外さない。紛失・洗浄液誤飲防止目的にて、基本的には職員管理。 J: 職員管理。 L: できない: 支持の理解ができない。	A: 介助。 E: 少し手を口に入れてゆるめてあげる。 G: 洗うことを説明し外すように促す。外せない場合は介助。 L: 職員が行う。	5
160306	ブラシを用意する	G: 紛失・洗浄液誤飲防止目的にて、基本的には職員管理。 J: 職員管理。 L: できない: 支持の理解ができない。	A: 介助。 E: 介助。 L: 職員が行う。	5
160307	水道栓を回して水 を出す	A: どうしてよいかわからない(回し方がわからない)。 G: 紛失・洗浄液誤飲防止目的にて、基本的には職員管理。 J: 職員管理。 L: できない: 支持の理解ができない。	A: じっと待つ。できないようなら、ゼスチャーで視覚的に指示。 E: 介助。 L: 職員が行う。	4
160308	水流の位置に義歯 を置く	G: 紛失・洗浄液誤飲防止目的にて、基本的には職員管理。 J: 職員管理。 L: できない: 支持の理解ができない。	A: 介助。 E: 介助。 L: 職員が行う。	3
160309	ブラシで義歯を磨く	G: 紛失・洗浄液誤飲防止目的にて、基本的には職員管理。 J: 職員管理。 L: できない: 支持の理解ができない。	A: 介助。 E: 介助。 L: 職員が行う。	4
160310	義歯をケース内に 移す	G: 紛失・洗浄液誤飲防止目的にて、基本的には職員管理。 J: 職員管理。 L: できない: 支持の理解ができない。 M: 義歯を洗浄液につけることを嫌がる。	A: 介助。 E: 介助。 L: 職員が行う。 M: 訴えが強い方などは時間限定で預かりその後本人に返す。	3
160311	義歯ケースを元の 場に戻す	G: 紛失・洗浄液誤飲防止目的にて、基本的には職員管理。 J: 職員管理。 L: できない: 支持の理解ができない。 M: 義歯ケースを預けることを嫌がる(盗られると心配する)。 M: 義歯を外して預けると不穏になり、義歯を返すまで介護者を追いかけていつまでも寝ない。義歯を自分でしまいこんで「盗られた」と騒ぐ。義歯が手元にないと不安を訴える。	A: 介助。 E: 介助。 L: 職員が行う。 M: 鍵をかけて管理する旨を伝えると安心する。 M: 最低1時間は洗浄液につけてから返す。夜預れない時は朝方トイレ誘導時に預かるなど預かる時間を工夫する。いつもしまいそうな場所を把握しておく。一緒に探してみつける。充分洗浄できない場合もあるが、本人が安心するように義歯ケースを居室において管理してもらう。	4
160399	その他	G: 紛失・洗浄液誤飲防止目的にて、基本的には職員管理。 J: 職員管理。 K: ポリドントと溶液を飲みこんでしまった。 L: できない: 支持の理解ができない。 M: 義歯をハサミでかかってに削る。他の人の義歯を入れて、「合わない」と騒ぐ。 針金を無理やり曲げたり、ポケットに入れていて壊れたり、義歯を壊してしまう。	L: 職員が行う。 M: 家族がハサミを持ち込んでいるケースが多い。刃物は回収し歯科で義歯を使用できるようにしてもら。名前を大きく書く、ケースの色を変える、他の人と重ならないように一人で洗面所を使ってもらいトラブルを避ける。入れ歯の着脱は介護者が見守り、義歯が口に入っているかも確認する。義歯の修理を歯科に依頼。義歯を作成することも人によっては難しく、義歯が壊れたことをきっかけに、義歯が使えなくなる方もいる。	

4) 様々な質的異常

160401	義歯を入れたまま 自前の歯であるか のように磨く	A: 磨くこと自体ができない。 E: 義歯を自分の歯だと言って聞かない。 K: 技師が合わない状態。	A: 介助。 D: 結構ある。 E: 無理にはせず時間をおいてチャレンジ。	3
160402	義歯を外すことを拒 否	A: 頻繁にある。 E: 嫌がる。口を開けるが指を入れたと噛む。 G: 盗られてしまうと思っている。 K: ケースにあずからうとするが、かたくなにティッシュにくるむ。 L: 有。 M: 口腔ケアの時間には行わない。一日義歯をはめたままている。	A: 機嫌をさぐりつつ、タイミングを見計らう。 E: 無理にはせず時間をおいてチャレンジ。 G: 不穏を助長する可能性がある為、一旦時間を置き、洗面所に「偶然近くを違ったように」誘導し、自分で行って頂く。 J: タイミングを見て、何度か声掛け。	5
160403	義歯専用ブラシで 自前の歯を磨く	A: 磨くこと自体ができない。	A: 介助。	3
160404	義歯洗浄ブラシで 髪をとかす	E: いない。 K: 歯ブラシで洗面台をこすってしまった。		3
160499	その他	K: 義歯をトイレに流してしまう。		

D. 考察

認知症者の生活障害は、脳の障害部位と認知症の重症度によってさまざまな具体像を呈することが明らかになった。しかし、実践者から語られた様々な生活障害に対する効果的なケアには共通するものが多く、今後認知症の生活障害に対するケアの標準化が可能であることが示唆された。さらに認知症の生活障害に対するケアの標準化がなされれば、認知症者の生活機能と障害を詳細に把握した上で認知症者の生活機能がよりよく発揮されることを保障するケアや障害を克服するための根拠あるケアが在宅、地域密着型サービス、長期ケア施設でも実践可能となり、認知症ケアの質指標となりうると考えられた。そのためには、今回の結果を踏まえて標準化された認知症ケアの普及のための教材作成が急務となる。よりわかりやすく実践可能性を高める教材となるためには、イラストや動画を用いた教材が適切であると思われた。

以上のようにケアの標準化や質指標、さらに教材作成を実現するためには、今後、認知症者の生活障害のありようを重症度別に整理することが必要となる。また、今回は要介護3レベルの認知症者の生活障害とそのケアについてのグループインタビューとなったが、MC I や軽度認知症、認知症の原因疾患別にも生活障害とその効果的なケアについて検討することが重要であると思われた。

E. 結論

要介護3レベルの認知症者の生活障害の具体像と効果的なケアが明らかになった。これらを踏まえて、認知症者の生活障害へのケアの標準化や質指標の作成が可能であることが示唆された。また生活障害に対する効果的なケアを普及するためにはイラストや動画を用いた教材作成も急務である。

F. 研究発表

1. 論文発表

諏訪さゆり，島村敦子，飯田貴映子：特集 認知症と理学療法 認知症高齢者のADLとケア．理学療法士ジャーナル，45(10)，837-843，2011．

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

平成 23 年度厚生労働科学研究費補助金（認知症対策総合研究事業）
「都市部における認知症有病率と認知症の生活機能障害への対応」
分担研究報告書

研究分担者 角間辰之（久留米大学バイオ統計センター）

○研究要旨

本研究事業における分担研究の主要な目的は、平成 21 年度および 22 年度に全国 7 地域で実施された認知症に関する調査集計結果と本年度埼玉県和光市、福岡県久山町、福岡県大牟田市の全国 3 か所で実施される調査集計結果を整理し統合することである。

A. 研究目的

全国規模で行われた調査集計結果から認知症に関する推計（有病率、症状別分布、所在の推計）を行ない、各調査地点での推定値を統合することが研究目的である。

B. 研究方法

方法論に関する文献調査を行う。更に、平成 21 年度および 22 年度に全国 7 地域で実施された認知症に関する調査と集計結果から有病率を推定する解析方法に関して久留米大学バイオ統計センターで定期的に行われるバイオ統計セミナーで発表し、バイオ統計専門家からの意見を収集する。

C. 研究結果

全国の有病率を推定するには、各調査地点の推定値を統合する必要がある。各調査地点の有病率推定値はその地域の年齢分布の影響を受けるため、直接法による有病率の標準化により地域特有の年齢分布の影響を取り除き、メタ分析で用いられる統計手法で推定値の統合を行う。直接法による率の標準化は基準人口の選択によって結果が変わるため、基準人口の選択が重要な問題となる。この問題を回避するための統計手法についての検討を行った。

D. 考察

有病率の推定値に影響を及ぼす年齢分布の調整法である直接法とその他の統計手法による年齢分布の影響の調整方法の比較検討を行うことが必要であることが分かった。

E. 結論

ポアソン回帰モデルなどのモデルによる年齢分布の影響の調整方法の可能性を更に検討する必要があると考える。

F. 研究発表

1. 論文発表

当該研究に直接関連した論文発表なし。

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

Ⅲ. 研究成果の刊行に関する一覧表

研究成果の刊行に関する一覧表レイアウト（参考）

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
池田 学		池田 学	認知症 臨床の最前線	医歯薬出版	東京	1012	
池田 学	過食、嗜好の変化など食行動異常で発症し、次第に意欲低下、こだわりが強くなったが、受診理由を尋ねると「特に困ることはない」と淡々と答える症例	小阪憲司	プライマリケア医の認知症診療入門セミナー	新興医学出版社	東京	1011	133-139
池田 学	ピック病（前頭側頭葉変性症）	松下正明	精神医学キーワード事典	中山書店	東京	2011	370-372
池田 学	前頭側頭葉変性症の精神症状	松下正明	日常診療で出会う高齢者精神障害のみかた	中外医学社	東京	2011	235-240
諏訪さゆり	スタッフ1 認知症について理解しましょう スタッフ2 生活リズムを整えましょう ステップ3 治療と薬について理解しましょう ステップ4 生活リズムチェック表を使ってみましょう	諏訪さゆり	認知症のケアとお薬のガイドブック	ワールドプランニング	東京	2011	1-67